

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語教授法についての研究 : アンケートを中心に
Author(s)	ムラット チャクル,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 16期 : 21 - 32
Issue Date	2002-03-29
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038886">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038886</a>
Right	
Relation	



# 日本語教授法についての研究

— アンケートを中心に —

ムラット・チャクル

## I. はじめに

日本語教授法に関しても もちろん、新旧様々ことが議論されてきている。例えば、

日本語を外国人に教えるには二つの立場がある。その一つは、日本語に就ての知識を興えるという方面で、日本語の語源、系統、成立、文法、或は分布の範囲、状態、或は他或語との比較、そうした方面を研究したり、調査したりして教えるのである。もう一つは、そのような知識的というか、学問的というか、そう言う方面のことは、そう深く考究しないでも、日常の談話が能く出来て、説話や演説などにもかかかないようになり、又新聞、雑誌、普通の書物なども読み得るようになり、又書くことも、ちよつと間に合うというまでに教える。即ち実用の方面に役に立つように教えて行くと言うのである（昭和11年、松宮 称平著、日本語教授法）。

あるいは、下に挙げるのは、昭和13年に台湾で発行された『国語講習所用国語教授書』に書かれたクラスの運営方法である。昭和13年（1937年）、即ち戦前の日本語教育指導書である。最近、はやりの外国語教授法とかなり似通ったところがある。

- 1—まず、実物や実際の行為あらゆる方法で直接見せながら教師が一人で話す。  
学生はただ受動的に聞いているだけでいい。こんな状況を相当期間続ける。
- 2—命令の動作は、学生に「紙に線を一本書きなさい」「紙に円を一つ書きなさい」と教師が口にする。学生は黙って命ぜられた動作をすればよい。この方法は言語教授の最初の段階では極めて有効な手段である。少なくとも三ヶ月間継続して用いられるべきだ。
- 3—型の談話。発表を機械的に練習する方法。一定の期間は、知覚と認識と共に模倣と再現の基礎を築くための練習を進め、更に、もう一度初めに戻り、知覚認識と共に模倣と再現の基礎を作るべきである。
- 4—連鎖動作（グアン式のやり方を改良したもの）で動作と言語との連結を図る。

（注）

例えば、「立ちます」「ドアの方に向きます」「歩きます」「ドアの前に止まります」「ノブに手を掛けます」「ノブを回します」「ドアを開きます」と言ったような行為を

名詞と連結して、更に継続する動作で学習する方法。

5－意識的に聞いている間に一部分を頭の中で模倣させる方法。

などのような議論は私の国トルコでは十分に生きている。

## 1. 教授法の歴史

日本語教育の歴史が深く、日本語教育に影響を与えた外国人の作っている教授法がある。この中にはベルリッツやグアンなどの作った教科書や教授法を参考にして、新しい教授法が作られた。1970年代に入ると、習慣形成理論に代わって、認知学習理論が外国語教育の主流を占めようになる。これは、人間の先行経験を重視し、学習を経験による認識構造の変化として捉える。この学習理論に従えば、言語の学習は学習者が自分で言語の文法を発見することであり、新しく学ぶ規則は常に既習言語概念の一部として関係づけ、分析的、演繹的に学習させなければならない。言語の形式よりも意味と機能を重視し、コミュニケーション能力の育成を目的とする種々の外国語教育が提唱されている。文型練習に代わって、会話やロールプレイが学習方法として重視されるようになったが、まだ特定の教授法として確立するに至っていない。

一方、従来の学習理論に飽き足らない人々が新しい手法の教授法を提唱している。「非伝統的 (unconventional)」と呼ばれるこれらの教授法に共通して見られるのは、学習者が言いたいことを重視し、教室の主役は教師ではなく学習者であるとする点である。教師の役目は問題に直面している学習者の洞察を促進する手助けをすることにある。日本語教育においても注目を集めているがその結果に関する実証的な報告はまだ出ていない。どう教えるかについては述べられているが何をどこまで教えるかが明確にされていないため部分的に取り入れられている例が多い。日本語教育に取り入れるにはどのような問題があるかをまず明らかにしなければならないだろう。

### 1－Community Language Learning (C L L)

アメリカの神学者であり、教育学者でもあるカーラン (Charles A. Curran) によって開発された教授法。

### 2－Silent Way

アメリカの心理学者ガテーニョ (Caleb Gattegno) 提唱した教授法。

### 3－Suggestopedia

ブルガリアの生理学、精神病理学者ロザノフ (Georgi Lozanov) によって開発された教授法。

### 4－Total Physical Response (T P R)

アメリカのアッシャー (James Asher) によって提唱された教授法。

## 2. 効果的日本語教授法

そこで、私は今回広大に留学しているを対象としてどんな教授法が効果的であろうかというのを、彼らとディスカッションとアンケートを元に教えてみることにした。

### II. アンケートの分析

以下に挙げるのは、実際に行ったアンケートである。中国・韓国・台湾・ベトナム・インドネシア・マレーシア・インド=ヨーロッパの国々（ハンガリー、チェコ、ルーマニア、オランダ、フランス、スロベニア、トルコ）・英語系の国々（ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ）などの国籍を持つ、60人の留学生を対象とした。この60人のうち36人は女性、残りの24人は男性である。年齢は19歳から35歳までの幅があった。今の能力試験レベルは一応プレースメント・テストのレベル4とレベル5（大体3級以上）の留学生を対象にした。

【1－あなたは専門の外国語学科と総合大学のどちらで日本語を習いましたか。】

この60人のうち31人は総合大学で、29人は専門学校で日本語を習ったようである。

【2－あなたの大学の日本語学科には何人の先生がいますか。】

【3－そのうち、日本人の先生は何人ですか。】

内容は繋がっているから、この二つの質問を一緒に分析したい。

この質問の答えはかなりばらばらである。アジアの国々では特に中国、韓国、台湾では、日本語学科にいる日本人の先生は全員の半分又は3分の1くらいである。しかし先生が全員日本人である日本語学科もある。これ以外のアジアの国々はかなりばらばらで先生が全員日本人だったり、一人は日本人だったり、又は全員その国の人々である。ヨーロッパと英語系の国々では3分の1が日本人である。

【4－学科全体に何人の学生がいますか。】

【5－一つの教室に平均何人の学生がいますか。】

この二つの質問も一緒に分析することにする。中国と台湾では、学科によっては、居る学生がものすごく多いことが分かった。例えば中国と台湾の、ある日本語学科には1000-2000人の学生が居るらしいのである。それでも一つの教室に平均30人か50人の学生が居る。

それからフランスでもある学科には600人の学生が居た。このアンケートに出ているヨ

ヨーロッパ国々の中で一番多くの学生を持っている日本語学科である。

【6－先生が授業を説明しているときに使っている言語は何ですか。】

- a) 日本語            b) 母語            c) その他

この質問を聞く理由は特に韓国、中国、台湾などの国では何語で日本語教育を行っているかを知りたかったからである。でも、出た結果は思った通りではなかった。

韓国人留学生の13人の間で6人の日本の学科で、日本語を教えている際、日本語だけ、3人の学科で韓国語、残りの4人は日本語と韓国語で日本語が教えられている。中国人留学生の17人の間で、11人の学科で日本語、5人の学科では中国語で、2人の学科で日本語と中国語で日本語が教えられている。

台湾人留学生の7人の間で、1人の学科で日本語、3人の学科で台湾語、3人の学科で日本語と台湾語で日本語が教えられている。

アジアの国々で特にインドネシアではインドネシア語で日本語が教えられている。インドでは日本語と英語で日本語が教えられている。

ヨーロッパはバラバラで、日本語だけで行われている日本語教育の国が少ない。主にその国の言葉と英語で日本語が教えられている。

【7－授業で使っている教材は、】

- a) 教科書、    b) カセットテープ、    c) ビデオテープ、    d) OHP、  
e) 絵カード、    f) 言語ラボ

実物はほとんどの大学で使われている。しかし、コンピューターはニュージーランド、オーストラリア、台湾、中国、韓国の日本語教育だけで使われているという事実が出てきた。f)の言語ラボとはLL (Language-learning) 教材のことである。これもほとんどの国の日本語の教育で使われている。その他に使われている教材は教科書以外にその授業の科目によって色々なプリントが使われている。

【8－一週間に何時間日本語の授業がありますか。】

一番少ないところで3時間から、一番多いところで30時間日本語の授業があるという結果が出た。やはり30時間授業がある国は韓国と中国である。他の国々は15時間から25時間の間であった。

【9－文法、講読、会話、漢字以外に他の日本語の授業がありますか。】

聞き取り、翻訳、通訳、日本歴史、日本文学・日本文化、聴解、作文、古典文化、日本語教授法、ビデオなどの授業が一般で、どの国の日本語教育でも教えられている。この一緒の授業以外に教えられている授業が以下の国々この授業である。

中国：日本語音声学、日本地理、文語文法、古語、新聞選読、視聴、日本事情、ドラマの授業、古典文学

韓国：指導論、作家論、日本事情、言語学、教育学、文化史、日本語学、擬音語・擬態語などの慣用語句の授業

台湾：ビジネス日本語、修辞法、近代文学日本語言語学、日本地理など

その他に、ハンガリーには思想史、文献学、漢文、日本語言語学という授業があるそうである。

**【10ー課外活動は一年に（一ヶ月に）何回ぐらいありますか。】**

この質問は、アンケートを答えた学生はあまり分からなかったようである。何も書いていない人が結構いた。でも、答えられたアンケートから、やはり特に韓国と中国で課外活動が他のアジアの国々とヨーロッパの国々よりもかなり多いようである。しかも、日本人が多く訪れるニュージーランドやアメリカでは、課外活動というよりも日本人と会って話す事が日常生活の普通のことになっているとも言える。

**【11ーどんな事をしましたか（自由に書いてください）。】**

アジアの国々、特に韓国、中国、台湾で行われているのは以下のようなものである。

韓国：合唱団、日本の色々なところへの見学、日本語会話クラブ（日本人の先生と）など

中国：スピーチ・コンテスト、作文コンクール、学部新造り、日本語コーナー（日本人の留学生と）、日本の伝統を理解するための祭り、日本の展覧会、茶道、日本人留学生との飲み会、遠足、日本への旅行、日本語のオペラ、桜を見に行くなど

台湾：特別な日に日本人留学生との会話、一度に日本に遊学するチャンスがあるらしいが、それに恵まれる学生は10ー15人だそうである。

それから他の国で、日本文化祭、ボランティアである学校で日本語を教える、学生達が自分で日本語会話クラブを作って日本語の練習をやる、キャンプ、日本とアジアの文化に関する見学、日本カレンダーデーなどの課外活動が行われている。

でも、この質問は多分ちょっと分かりにくくて、「課外活動って何？」と書いた人がかなりいた。

【12-あなたの国で大学以外に他に日本語を教えるところがありますか。】

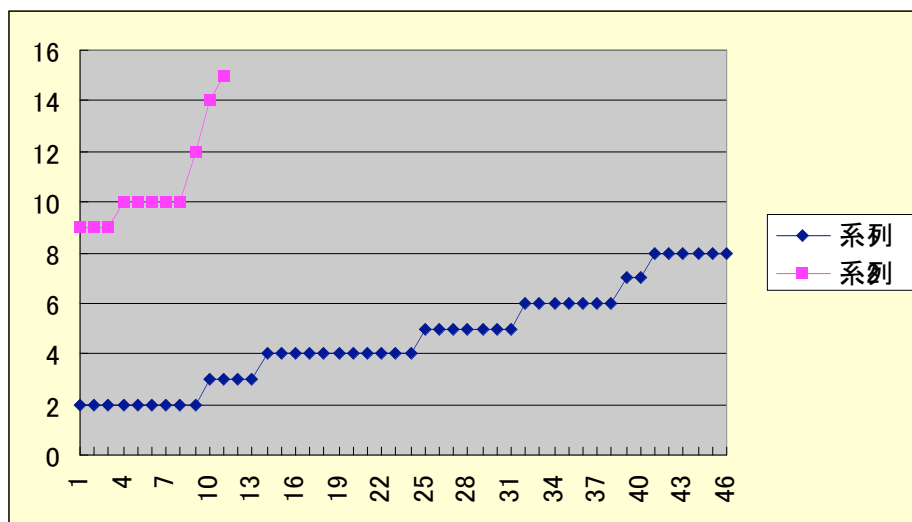
韓国、中国、台湾、アメリカ、ハンガリー、ルーマニアでは、日本語教育は中学校、高校などのところで一般に行われているようである。それ以外には以下のようなところがある。

日会話の塾、外国語教室、市役所、図書館、民間日本語学校、短期外国語コース、民間塾、大学での社会人向けのコース、日本語センター、各日本語教育機関、言語学校、私立学校、翻訳・通訳をやっている機関、日本の会社のための日本語コース、個人で日本語を教えている先生など

【13-あなたは今までどのくらいの期間日本語を勉強していますか】。

期間

このアンケートを答えた留学生の数



このグラフでは系列1は2年から8年までの間、日本語を勉強している学生を表している。系列2は9年から15年までの間、日本語を勉強している学生を表わしている。

4年と答えた人が多い。これは大学の学科での学習を終えた結果（4年生の大学の場合）ではなく、留学生が在学中に日本に来ている場合もあるので、原因は一概には断定できない。しかし、ここからこのアンケートを答えた4年以上日本語を勉強している回答者が将

来日本語の先生になる、または日本語と関係がある仕事につくためだということで日本語を勉強しているようである。

【14—一日何時間ぐらい自習していましたか。】

やはり勉強をやる時間の長さはその学生次第である。アンケートの答えの中で全然勉強しないと答えた人も結構居た。30分勉強すると書いた人も居れば、5—6—8時間も勉強する人が居るようである。

【15—日本語を勉強する目的は何ですか。】

インドネシア、インド、ハンガリー、オランダ、トルコ、韓国の留学生はほとんど皆が「日本語の先生になるため」という回答だった。他の答えは以下の通りである。

日本文化をもっと知りたいから、日本を理解するため、日本文化を身につけるため英語以外の外国語を話したいから、日本語の授業を理解するため、学科要求や日常会話ができるようになるため、旅行のため、日本の会社で就職するため、国際会社を創りたいから、趣味で、日本語が好きだから、日本人と日本のことを知りたいから、日本人みたいに話したいから

などのような答えだった。でも、この学生の中に今まで日本語を勉強して、まだ目的のない学生がかなり居るようである。

【17—学校以外に、どこかで日本語の会話練習をやっていましたか。】

a)はい                      b)いいえ

【18—どこで、どのくらいやっていましたか。】

この二つの質問を一緒に分析したい。17番の質問に「はい」と答えた人は80パーセントぐらいだった。「はい」と回答したのは韓国、中国、台湾、インドネシア、インド、ベトナムの学生だった。彼らは学校以外に、下のようなところで、以下のようなことをやっているようである。

食堂でたまに日本語会話、一週間に2回くらい日本人との会話、その国の学生同士で日本語の会話練習、日本語のセンターで、観光会社で、日本人留学生の寮で週2回日本語の会話、日本人友達と毎週会って、一回1時間ぐらい会話練習、ボランティアの日本



語教室で、日本人留学生と週に2回ぐらい日本語の会話練習、2年間日本人の家で、日本語受付者クラブで、毎年夏休みに観光会社で一ヶ月ぐらい働いたりして、ボランティア活動でいろいろな経験がある、日本での一ヶ月間の研修プログラムなどのところで日本語の勉強や会話練習はしているというようなことがあった。

【19ートルコでは日本語学科に入る前に、まず、一年間の予備学科（またはクラス）があります。それに合格できないと、学科に進学できません。あなたの大学ではどうですか。】

トルコ以外にはこのようなことがないそうである。でも、ベトナム、ハンガリー、フランス、インドネシアなどの国では似たようなことがあるようだった。

ベトナムのある大学では、ほとんどの学生が学科に進学する前に日本語センターで6ヶ月間日本語を習ってから本番の勉強に入るそうである。

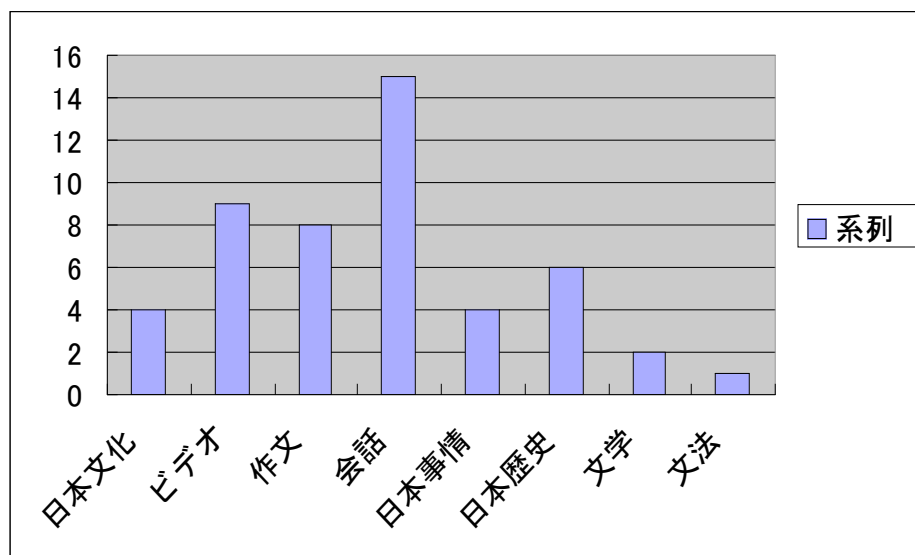
ハンガリーでは大学に入学するには能力試験3級や2級が必要だそうである。

フランスでは高校を卒業してから大学に入るにはバカロレアという特別な試験に合格しなければならないということである。

インドネシアには日本語①と日本語②という授業があつて、それに合格できない学生は退学させられるらしい。

ところがニュージーランドにはうちの大学のシステムに似たようなものがあるらしい。

【20ー今までもっとも面白いと思った授業は何ですか（自由に書いてください）。】

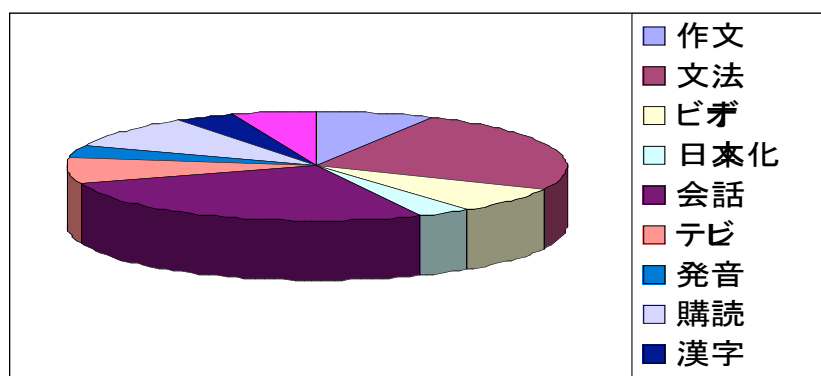
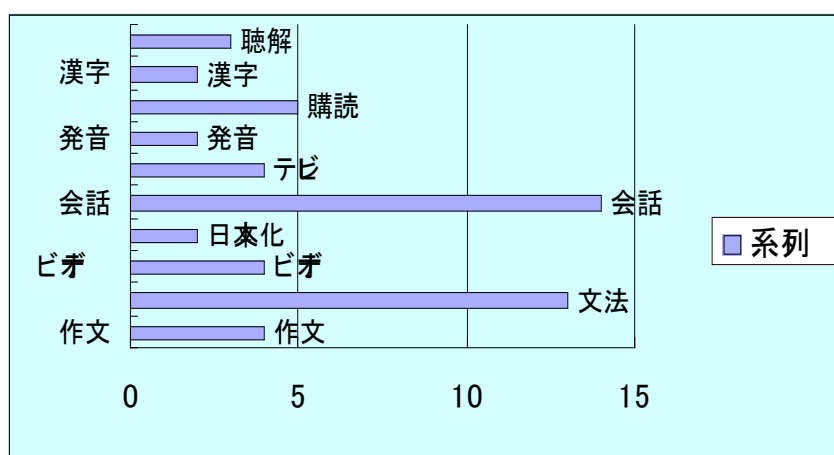


一番人気のある、または面白いと思われる授業がこのようなグラフになった。

この授業の他に日本語の落語、日本の近代文化解説、新聞記事の分析、古典、家庭論、色々な活動でやる授業などが学生は面白いと思っている。

ところで、留学生センターの今石先生、深見先生、石原先生、中川先生、橋本先生の授業はとても面白いと答えた学生たちも居た。

【21 一番役に立ったと思う授業は何ですか（自由に書いてください）。】



一番役に立ったと思われる授業はこのようになった。グラフを見ると、会話と文法が一番である。

【22 中国、韓国、台湾などの学習者は日本語がどうして他の国、特にヨーロッパの国々より速く上達すると思いますか（漢字以外の原因があると思えば、それを書いて下さい）。】

このような考えがあった。

- ・音声的に近い(9人の回答者が同じように答えた)
- ・韓国語と日本語は文法的にもものすごく似ている(10人の回答者が意見だ

った)

- ・単語、漢語の共通性（8人の答えが同じだった）
- ・アジア系で日本人と文化的に近いため、日本人と付き合いやすい（5人の回答者が同じだった）
- ・非漢字の国の人は文化的に、言語的に差違（がかけ離れていること）は重点アジア系が口の姿勢は同じ（1人だけがこのように答えていた）
- ・合づち習慣があるからではないか（5人は同じ意見だった）
- ・食物とか日常文化がとても似ているからではないか（5人はこのように答えていた）
- ・昔から国間交流が強かったからではないか（13人が同じような答えだった）
- ・儒家思想の影響を与えているからではないか（12人が同じ意見だった）
- ・日本植民地時代の日本語はいまだに使われているからではないか（4人はこのように答えていた）
- ・皆一生懸命に勉強しているからではないか（8人がこのように答えた）

と色々な意見があった。

【23ー将来、日本語の先生になったとして、学生にどのように教えたらより速く上達でき、よりたくさんの方が教えられるのでしょうか。】

このような意見があった。

- ・最初に厳しく日本語を教えてもらって、それから自然に日本語会話をしながら身に付ける
- ・実生活に密接する表現を出来るだけたくさん導入する
- ・日常生活の会話ができるように日本語で授業をやる
- ・楽しく教えるのは一番いい方法
- ・たくさん聞かせること、話せること、そして、興味を持たせること
- ・出来るだけの程度で単語量、文法量を増やすこと、そして、たくさん話す練習
- ・日本語の面白さを感じさせ、学習意欲を高め、会話の訓練を重視する
- ・現在の社会、若者たち、政治などのことを話題にして、これについてディスカッションや面白い話をしたり、日本語でビデオや映画を見せたりする
- ・教科書がとても大事。アジアの国々とヨーロッパの国々で日本語を教えるならその国のレベルに適切な本を選ぶことが大事。
- ・週に少なくとも3回授業を持つ宿題をたくさん出す

- ・日本人との交流を設定する（インターネット、ホームページ、ビデオなどで）

というような意見であった。

【24ーもし他の意見があれば自由に書いてください。】

この質問に4人しか答えなかった。でも、この4人の書いた意見はみんなの意見のまとめみたいで、以下のようなものがあった。

- ・学習者の勉強のニーズに合わせて教えること
- ・先生だけに頼るならば、日本語が上手になりにくい。自分からどんどん日本語と接触し、付き合っていけばおのずと上手くなるのではないか（同様回答あり）
- ・授業に興味を持つように、面白い日本の文化から教えたらいいのではないか

というような意見であった。

アンケートの評価と分析は終わった。次に、アンケートの質問に対しての自分の反省を書きたい。このアンケートでは、質問が微妙なものや言葉使いや意味が分かりにくい質問があったから、その質問によって、回答者の答えは変わっていた。それで、質問の内容を回答者がもっと分かりやすく、それから明確に表記した方がよかった。特に、1、10、12の質問は回答者には質問の意図があまり分からなかったようである。

### Ⅲ. 結語

このアンケートをやって、出た結果は次の4つのことでまとめられると思う。

- 1ー日本と中国、韓国、台湾の間での深い歴史と文化的な交流関係がみられる（アンケートの22番の問題からこのような結果が出た）。
- 2ー漢字系国々と非漢字系国々の文化的・言語的な差違が日本語学習の上達の度合いに与える影響は重要などがみられる（アンケートの12、15、17、18、22の問題からこのような結果が出た）。
- 3ー儒家思想の影響が強いと考えている（15、22番の問題からこのような結果があった）。
- 4ーアジアの国々、特に韓国、中国、台湾が日本にヨーロッパよりも地理的に近い

ということで特にこの3つの国の日本語学習者は、他のどの国よりも日本語が速く上達す

るのではないかと考えている。しかも、中国、韓国、台湾、それからオーストラリア、ニュージーランドなどの国に、日本人の大学生が日本語を教えに行ったり、または留学に行ったりし、日本人と会うチャンスはヨーロッパの国々より多くなるのではないかと考える。それで、自然にその国々で日本語教育のために最も良い環境が成り立って、その国の日本語を勉強している学習者が日本語は他の国特に、ヨーロッパの国々の日本語学習者より速く上達するということになる。

ここで「効果的日本語教育法って、どういうことですか」という質問に答えるなら、この4つのことがある環境ではどの教授法で日本語の教育をやっても効果的になるのではないかと考える。

しかし、ヨーロッパ、特にトルコの場合で、今一番必要なのは最高の教授法ではなくて、日本人とのふれあい、交流である。トルコでも日本人との触れ合いや友情関係ができる場所を作って、文化的、教育的な交流をもっと増やせば、トルコ人と日本人はお互いに理解でき、トルコでの日本語教育も韓国、中国、台湾のように上手くなるのではないかと考える。

## 参考文献

江副 隆秀・林 伸一（1986）『外国で日本語を教える』

木村 宗男・阪田 雪子・窪田 富男・川本 たかい（1989）『日本語教授法』

長島 達也（1987）『パナリング式 日本語教授法入門』

松宮 称平（1937）『日本語教授法』

石田 敏子（1988）『日本語教授法』